

第 91 号 2015. 1. 26

社会福祉法人 愛光園

誰もが慣れ親しんだ地域の中で  
安らいだ暮らしが続けられるために

知多地域障害者生活支援センター らいふ

## 知多の暮らしを結ぶ

知多の暮らしを結ぶ

発行責任者： センター長 葛間 雅由  
〒470-2102  
知多郡東浦町大字緒川字寿久茂 129  
TEL 0562-34-6609 FAX 0562-34-6618  
E-Mail [life@aikouen.jp](mailto:life@aikouen.jp)  
URL <http://www15.ocn.ne.jp/~life1997/>

## 初夢に代えて



明けましておめでとうございます。

まず先に、私に関わった出来事を紹介させていただきます。

昨年末に、知多半島には珍しく大雪が降りました。その次の朝の出来事です。あるデイケアの事業所から「昨日の大雪の日もがんばってこられていた F さんが、今日は何の連絡もなく来られていないので、何かあったのかと心配しているのです。」と電話が有りました。大雪の中出かけたので、F さん風邪をひいたのでは？と思い、予定を調整して訪問しました。ご自宅に着くと、隣に住む一人暮らしのお婆さんが「あんた大変な事があったのが良くわかったね、F さん昨日の雪で転んで頭を打って、そりゃ大きな音がしたんだよ。私はびっくりして、救急車を呼んだの。F さん一人暮らしみたいなもんだから、私もどうしようか困っていたんだよ」と、早朝の出来事をお話しされました。お婆さんのお話を聞いた僕のほうが驚きました。搬送先の病院を聞いて駆け付けると、てんかん発作のある F さんは何度もけいれん発作を起こしてしまい、薬で寝かされていました。看護師さんに F さんの体の状態を確認して、成年後見制度を利用している F さんの入院手続きを成年後見センターにお願いし、遠くに住まわれている

お兄さんに緊急での入院治療の承諾のお願いをし、ヘルパー事業所に事情を説明してヘルパー利用をキャンセルし、最初に連絡いただいたデイケアのスタッフに入院の経緯をお伝えしてお礼を言って…等々、およそ F さんに関わりのある人たちに連絡し終わったらお昼になっていました。

その日に約束していた仕事を済ませて、夕方に F さんの隣のお婆さんにお礼を言いに行きました。お婆さんは「心配だから F さんの顔を見に行きたい」と言って下さり、一緒に F さんの病室を訪ねました。この一日の間に F さんを見舞ってたくさんの方が病室に来られていました。デイケアのスタッフ・後見センター・病院のワーカー・そしていつも受診している精神科のクリニックの先生まで。F さんが、どれだけ多くの人々に支えられ見守られて生活されているか実感した一日となりました。そして、幸いな事に F さんのけいれん発作も一過性で治まり、4 日間の入院で無事退院する事ができました。退院後にたまたま F さんの支援のためのケア会議を予定していたので、遠方のお兄さんも来られて、地域での暮らしの人垣の大切さを会議の席で確認させていただく事ができたのでした。

前号で「地域生活支援拠点」について、少し書

かせていただきました。「地域生活支援拠点」は、Fさんのようにご両親がすでに他界され、例え一人暮らしになったとしても、住み慣れた地域で暮らし続けていきたいという願いに応えるための仕組みです。規模の大きなグループホームあるいは定員の少ない(30人程度)の入所施設に緊急ショートステイや体験入居、24時間の相談等の機能をもった「多機能拠点整備型」と、地域の中にある施設が様々な機能を分担し連携して機能する「面的整備型」が国から示されています。Fさんの転倒事故であらためて実感したのは、この地域には「地域生活支援拠点」の機能を「面的整備型」として分担して担える多くの施設や機関や人々が既に存在するという事です。障がいのあるご本人が、安心して年を重ねていくために、あなたの住む町の福祉の資源を「地域生活支援拠点」の機能としてデザインした時に、何があって何が足りないかを、見直していくことは、あなたの町をこれからもっと豊かにする事に繋がっていく筈です。地域で活躍されている福祉関係事業所がそれぞれの特性を活かしてプラスワンの機能を加えていく事で、地域全体の支援がどんどん強くなっていくって欲しいものだと、初夢代わりにお伝えさせていただきます。

(葛間雅由)



## 障害児等療育支援事業

あけまして、おめでとうございます。

昨年は、関係機関の皆様、保護者の皆様には何かとお世話になりまして、ありがとうございました。今年も引き続き皆様からのご指導とご協力をよろしくお願いします。

唐突ですが、昨年は、皆様にとって良い年でしたでしょうか？障害児等療育支援事業にとっては、あまり良い年ではありませんでした。昨年の3月という次年度準備真っ盛りの方に委託費減額が通知され、関係機関との再調整とあきらめと怒りと悲しみとやり切れなさがワンセットで押し寄せ、スタートからつまづいた感がありました。そのようなことがあったので、年を越し、らいつに大恐慌に陥った魔の3月がまたやってくるのか！？と思うと、戦々恐々としています。今年が良い年になりますようにっ！！今年も安定した年になりますようにっ！！

さて、願掛けはこのくらいにして、今回は、今年度の事業報告をしたいと思います。まず、今年度の療育の一番のトピックとしては、南知多町にどんぐり園が誕生したことです。これで知多半島5市5町に最低1か所ずつ療育施設が設置され、どの市町で生まれても療育を身近な場所で受けられないということは、制度上なくなりました。(地域性や障がい種別、家族の諸条件等を加味すると、まだまだ療育が身近ではない地域もありますが・・・)

知多半島の他の市町も見渡すと、英比保育園ほし組(阿久比町)が3年目、わかば園(美浜町)が2年目、児童発達支援センターちよがおか(常滑市)が市立から民間運営となって1年目と立ち上げ間もない療育施設が複数あります。このような地域の状況の中での本事業の役割の一つとしては「立ち上げ支援」があり、立ち上げから5年目まで支援者研修を回数多く届け、スムーズな立ち上げと療育が根付くことを支援していくものです。

立ち上げ支援の実際としては、専門職を派遣して、施設側から出された課題に対して、現場の観察をし、療育内容・子どもの個別の支援・親支援の検討を行っています。各施設への支援の内訳としては、どんぐり園には年3回訪問し、療育経験者・OT・STを派遣、わかば園には年5回訪問し、療育施設職員・STを派遣、ちよがおかには年4回訪問し、愛知県コロニー職員を派遣、英比保育

園ほし組には年3回訪問し、元大学講師、療育施設職員を派遣となっています。

次に、今年度の保護者向けの支援については、就労や将来の進路に関する内容を希望するニーズが主に学齢期の子どもの保護者より多くあがってきたため、本人向けの仕事に関する学習会、中学卒業後の進路選択について、アスペルガー症候群当事者の就職活動体験談、就労や将来の暮らしに関する情報交換会（保護者交流の場）といった内容をそれぞれ1回ずつ5回開催しました。

このように今年度重点的に実施した事業は、支援者向けは立ち上げ支援、保護者向けは就労に向けた情報提供となりました。立ち上げ支援は、複数重なったことから、他の関係機関との回数調整等で大変でしたが、施設が雨後の筍のように立ち上がってくるわけではないので、大変貴重な機会に巡り合えていると感じています。せっかくの機会をいただいているので、どのような道すじで療育が地域に根付いていくか注意深く見守っていきたいと思います。支援が足りなくて根枯れがおきないように、また、不必要な支援を行って根腐れがおきないように。（東悟）



## 障がい者就業・生活支援センターワーク

「集い」で振り返る「きんろうかんしゃの会」

皆様、お元気で新年をお迎えでしょうか。お正月休みなく勤務された方々もいらっしゃるかと思います、お疲れ様です。今年一年のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今回は、昨秋に行われ「職場定着に向けた在職者の研修会・交流会～『きんろうかんしゃの集い（以下、集い）』」についてご報告いたします。今回で13回目となる集いは、11月16日（日）半田市福祉文化会館にて開催され、午前中は「ワーク10周年記念企画～きんろうかんしゃの集いを考える」と題してこれまでの集いの活動を振り返りました。

集いは平成20年に始まり、年2回のペースで開催してきました。内容は在職者による本人発表と本人向けの研修会を行っています。これまで20名の方々がご自身の就労生活について、講師となり発表してくださいました。（もちろん、講師料もお支払いしています。）発表の準備は仕事が終わった後にスタッフと話しながら進めますが、慣れないことで時間と手間がかかり大変なこともあります。当日は大勢の人前で話すことに恥ずかしさ・緊張を感じる方もいらっしゃいますが、何より自身のことを振り返る良い機会となり、皆さん発表後はとてもよい表情をされていらっしゃいます。今後もぜひ多くの方に発表していただきたいと思いますので、在職者の皆様で「発表してみたい！」という方がいましたら、ぜひワークまでお問い合わせください。

続いて「きんろうかんしゃの会活動報告」と題して、メンバーから会の活動について写真を交えながら紹介して頂きました。毎月1回クラシィ半田で活動しており、話し合いでメンバーがやりたい行事（カラオケ、ボーリング、忘年会、日帰りバス旅行等）を企画しています。楽しそうな様子を見て、「入会したい！」とその場で声を上げる方もいらっしゃり、集いをきっかけに新しいメンバーが増えたことも嬉しい出来事でした。新規メンバー募集中ですので、こちらも参加希望の方はワークまでご連絡お待ちしております。

午後は恒例のグループ討議で、今回は最多の34名が参加あり5グループに分かれて話し合いました。初参加で緊張された表情の方も、自己紹介で仕事内容や趣味・楽しみのお話をするうちに、次第

に打ち解けた雰囲気になりました。グループごとに自由に話し合い、「職場であいさつしても返事がない」「相手に自分の気持ちをどう伝えたら良いか」などの話題が出ました。他のメンバーからの意見を聞きながら、いい方法や工夫をメモされている姿もありました。参加者それぞれに気付きがあり、新しい仲間とつながり、明日からの仕事や生活に向かう気持ちに少しでも変化が起きたのではないのでしょうか。スタッフとしても、ご本人同士の支え合う力をひしひしと感ずることができた集まりとなりました。次回の集いは、3月14日（土）を予定しています。お楽しみに！

（田口絢子）



東海市・知多市・阿久比町・東浦町

## 障がい者総合支援センター

あけましておめでとうございます。

育児休暇を終え、昨年4月より再び相談支援に携わっています。

子どもを出産し子育てをする中で、子どもたちがたくさんの誰かに見守られながら育っていくことができれば、幸せなことだなと感じています。それはきっと子どもでも大人でも障がいがあっ

てもなくても同じことなのではないかと思えます。障がいのある方々が家族や地域の誰かに見守られながら地域生活を送っていくためのお手伝いのできればと思います。今年もどうぞよろしく願いいたします。

今回はケア会議を通して学んだことを書かせていただきます。

ケア会議では、地域生活を送る中でこんなたいへんさがあって、それを解決するためにどんな方法があり、どう応援していけばいいのかが、どんなサービスを使うといいのかなどを話し合っています。様々な立場の支援者がチームとなって連携し、ご本人を応援していくための会議はとても重要なものです。

今回、ケア会議を行った方は知的障がいの方で、施設への送迎を2事業所で支援していました。その方は調子が悪くなると手がでてしまうことがあり、ヘルパーさんが対応に困っていました。その事業所では支援の方法がわからない中で、困っているから助けなきゃという思いだけで支援して下さっていました。

ただ、ご本人の特性を理解しないまま支援することで、ご本人も支援者も苦しくなっていました。その声を支援センターに届けていただき、もう1つの事業所にも集まっていたいただき支援方法を話し合いました。

その方の特性や好きなこと、苦手なこと、不安定になったときの支援方法などを話し合い、ご本人の特性に応じた支援を行っていくことを確認しました。本人に楽しく、心地よくその時間を過ごしていただくために支援者も一緒になって楽しい時間を過ごすことはとても大切なことだと教えていただきました。

会議後にヘルパーさんが「こういう機会があってよかった」とおっしゃって下さいました。

本来ならば、支援が開始される前にしっかりと本人特性や支援方法などを確認することが必要であり、対応が後手後手に回ってしまったことは反

省ですが、会議に参加された方からこのような感想をいただいたことが本当にうれしかったです。そして会議で話し合ったことが支援に活かされご本人へと還元されていく。

ご本人が笑顔で通所先へ行き、自宅へ帰ってくる。そんな光景が見られれば、きっとこれからも良い支援をしていただけるのではないかと思います。ご本人、ご家族、支援者からの困ったという声をしっかり拾い、ご本人がより良い支援を受けられるお手伝いできればと思っています。

日々の支援の中で困っていることがあればどんなことでもお声をかけていただければと思います。

今年も1年、よろしくお願ひいたします。皆さんにとって良い年でありますように。

(松田桃子)



## 地域居住サポートセンター

新春の候、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

暖冬かもしれないと言われていた今冬ですが、晩秋から一気に冬へと突入した感があり、12月の半ばにこの地域が積雪に見舞われたのも久しぶりであったと思います。18日は、早い時期の雪で朝方は関連事業所間の情報のやり取りで多

少混乱は生じたものの、ホームに入居している皆さんは特に混乱することもなく、お昼頃までにはほとんどの方が通所・通勤先へ到着することができて、一件落着となりました。

年が明けてお正月にも雪が降り、年末から暖かい日あまりないところをみると、今年は厳冬となりそうな様相です。しっかり食べて寝て、厳しい寒さの時期を無病息災で乗り越えたいものです。

さて、来年度に向けての新たな取り組みに動き始めるべき時期ともなりましたが、愛光園地域居住サポートセンター管轄のグループホームでは、現在の12ホームというホーム数は変わらないものの、2軒のグループホームを閉じて新たな2軒に居を移していただくと同時に定員増を計って行く計画を立て、昨年秋の法人理事会で審議・承認いただいた上で、4月開所を目指して現在準備が進行中です。

### 開設予定の「川口ホーム」



### 開設予定の「白沢ホーム」



この新たな2ホームの立ち上げには、老朽化したホームの住替え、支援体制の再構築、新たなグループホーム入居希望者の受け入れ等、様々な意味や思いが込められています。昨年末から、まずは閉設を予定している2ホームに入居されている方たちへ向けて、この計画をお話しして住替えの意思確認をはじめており、今後は順次対象者を拡げてお話しをして行く予定ですが、説明不足が元で「こんなはずではなかった」と残念な結果が生じることなどないように、わかりやすく丁寧に説明・意思確認をして、新たな暮らしを安心して楽しいものにしていただけるよう配慮していきたいと考えています。

本年も、どうぞよろしくお願い致します。

(多田真)



## らいふ 直接支援

明けましておめでとうございます。

年末から雪が降り、寒い日が続いていますが、皆様体調を崩されていないでしょうか？まだまだ寒い日が続くようなので、体調には十分注意してお過ごしください。

さて、昨年末に直接支援のサービス評価アンケートを実施いたしました。お忙しい中、回答していただき、ありがとうございました。今回も多くの方々にご意見をいただき、嬉しく感じています。

そのアンケートの中で、「移動支援、行動援護の行き先を提案して欲しい」との回答を多く頂きました。らいふでは、より多くの方に利用していただくために、午前と午後に分けて利用していた

だいています。そのため、行き先が限られてしまうという現状があります。こちらからも行き先を提案できていない状況があり、大変申し訳なく思っております。

そこで、今回この場をお借りして私が過去に行ったお出かけ先でここ良かったなという場所をご紹介します。ご提案にならないかもしれませんが、参考にいただければと思います。

1つ目の場所は、西春にあるエアポートウォーク。ここは、名古屋空港に隣接しており店内から飛行機を見ることが出来ます。冬でも暖かい店内から飛行機を見ることが出来るので、セントレアのように寒い中で長時間飛行機を見る心配がありません。(音の迫力がかけてしまいましたが・・・)店内には、飲食店や映画館もあるので、買い物をするだけでなく、おやつを食べたり、映画を観たりすることもできます。

アクセスは、名鉄西春駅からバスで行くことが出来ます。お店の目の前に停まるので行きやすいです。ただ、バスの本数が少ないので1本乗り遅れてしまうと大変ですが。

2つ目の場所は、アクセスの面で行きやすい、モゾワンダーシティです。ここは名鉄上小田井駅から徒歩5分のところにあり、駅から無料のシャトルバスも出ています。

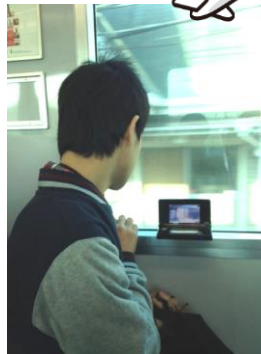
県内には、大型ショッピングセンターがたくさんあるので、違うお店に行ってみるのも良いかと思えます。

3つ目の場所は、セントレアです。セントレアは行かれている方も多くいるかと思いますが、実はセントレアには、セントレアガーデンという外を散歩できる場所があります。出発ロビーからエレベーターで1階に降り、出入り口を出て右の方向に行くと綺麗に整備された散歩コースがあります。散歩コースの終点は丘になっていて、そこから飛行機を見ることが出来ます。

また、その丘の南側には広い敷地があり、時々イベントをやっていることもあります。

私が行った時には、車のドリフトレースが開催されていて、爆音が響いていました。長い時間を過ごすことは難しいですが、館内に比べて人も少ないため、のんびりとお散歩ができるのでおすすめの場所です。いかがでしょうか？

### ～電車を乗り継ぎセントレアへ～



帰りに乗る電車を見ながらにっこり。

**自宅最寄り駅から出発です！  
ニンテンドー3DSで電車の動画を撮影。  
撮影した動画は後から見て楽しめます。**



**セントレアスカイデッキです。  
飛行機も撮影しました！**

移動支援、行動援護の行き先については、皆様にご提案していけるよう努めてまいります。皆様からも「こんなところがあったよ」というお出かけ先がありましたら教えていただけると嬉しいです。

最後になりましたが、本年もよろしくお願いいたします。

(行武亮太郎)

## ◇運動クラブ ふいっと◇

新年あけましておめでとうございます。昨年のふいっとは多くのボランティアの方のご協力の下、新しい取り組みに挑戦させていただいた1年でした。本当にありがとうございます。

新しい取り組みを行うには、考えること、準備することがたくさんありますね。そして新しい取り組みを計画する側も体験する側も勇気があることだと思います。

今回ご紹介するのは、年に1回のふいっとの遠足の活動についてです。ここ数年、ふいっとの遠足といえば、大府市にあるあいち健康の森へ出かけることが定番になっていました。活動内容は、公園内で昼食を摂り、散策。移動手段としてはバスを貸し切っていましたので、どちらかというメインは「公園で遊ぶ」ということでした。今年度の遠足は、東海市にあるしあわせ村へ行き先を変更し、公園内で昼食を摂り、散策をすることにプラスしてみかん狩りを企画し、移動手段も電車での移動に取り組みました。結果から申しますと、遠足当日は雪交じりの雨が降りみかん狩りは中止となってしまいました。

私たちスタッフが最も気にかけていたのは電車での移動です。普段電車を利用する機会が少ないメンバーさんにとっては、聞きなれない音（ブレーキの音）やこれから何が起こるのかわからない不安が多いと思います。また、普段ヘルパーとのお出かけや、ご家族とのお出かけで電車を利用していても、乗り始める駅や乗っている時間がいつもと違い戸惑うメンバーさんもいると思います。

計画する側としては、電車に乗ることが出来なかったら、降りることが出来なかったら……。など正直心配なことはたくさんありました。一つひとつ、考えられる不安を解消する為に計画を密に練りました。

遠足当日はと言うと、拍子抜けするくらいとてもスムーズに電車での移動が出来ました。堂々としているメンバーさんの姿を見て嬉しくもあり、頼もしさも感じました。

新しいことへの挑戦はなかなか手が出ないこともあるかと思います。今回の遠足を通して、その方の今までの経験、持っているスキルをしっかりと把握すること、起こり得るあらゆる可能性・対策を考えておくこと、しっかり順序立てて行うことにより新しい取り組みもスムーズに進みやすいということを実感しました。

今後も新しい経験を通してメンバーさんたちの隠れた力を引き出すお手伝いをさせていただきたいと思います。今年もよろしく願い致します。



今年度のふいっとの活動は下記の通りです。

2月14日（土）、3月7日（土）

来年度の予定は決まり次第お伝えさせていただきます。  
(佐藤智洋)

#### ☆お知らせ☆

ボランティアさんを随時募集しています。知的障がいのある仲間たちと一緒に体を動かして楽しみませんか？リズム体操や、パラバルーンなどみんなで楽しめるプログラムになっています。

また年に1,2回お出かけのプログラムを予定します。

**連絡先** TEL : 0562 - 34 - 6293

E-mail : [life-neco@aikouen.jp](mailto:life-neco@aikouen.jp)

(ふいっと担当：佐藤、矢野)

# 職員募集

詳しくはホームページをご確認ください！

<http://www.aikouen.jp/>